

## 日本で初めての女性医師

### 荻野 吟子

荻野吟子は、一八五一年武蔵国幡羅郡俵瀬村（現在の埼玉県熊谷市俵瀬）の大きな農家に生まれました。「女に勉強は不要」という考えの時代でしたが、吟子は兄の勉強時間になると、ままごと遊びをやめて飛んでいき、兄たちよりも熱心に勉強し、才女と呼ばれるまでになりました。



〔熊谷市江南文化財センター蔵〕

十八歳の時に地方きつての名主の家に嫁ぎましたが、当時は不治の病とされていた病気にかかり、辛い日々を送っていました。「なぜ、こんなに辛い思いをしなければならぬの。私は元の体に戻りたい。」と布団をかぶって何度も泣きました。そんな中、吟子はある決意をしました。「医学を勉強し、私と同じように苦しんでいる女性を助きたい。」

しかし、その頃の日本は、女性であるということだけで、

医師になるための試験を受けることができなかったので。「女が医師なんかになれるわけないんだ。」周りの人々は笑いました。

けれど、吟子はそんな言葉にくじけることはありませんでした。国の役人のところへ行き、何度も何度も女性医師の必要性を訴えました。役人たちは、吟子のひたむきな熱意に心を動かされ、受験を認めることになりました。吟子は、二年にわたる難しい試験を全て突破し、日本初の女性医師となりました。

その後、キリスト教の伝道活動で知り合った志方之善と再婚しました。「北海道にキリスト教を広めたい。」という夫の夢をかなえるため、親切にいねいな診察でたいへん評判がよかった医院をたたみ、開拓者として北海道（今金町）に渡ることを決心しました。四十六歳のとき、「医師としてまた働きたい。」という思いから、瀬棚町（現在のせたな町瀬棚区）に医院を開業しました。貧しい人や女性も分けへだてなく診察し、吹雪の中を遠くまで往診したこともありました。吟子は医師としての治療と社会活動に情熱をそそぎました。そんな吟子からはもう、日本で初めての女医として、はなばなしく活躍していた面影は

消えていました。けれども、吟子はどんなときも、「女性  
はどのように生きていったらいいのか。」を考え、瀬棚で  
四つにまとめています。

一、女の人の価値は、貧富などの身分の差ではなく、心  
のもち方で決まる。

二、男女平等と女の人の社会的な自立が大切である。

三、女の人も国について考える必要がある。

四、歌（短歌）を心の友にしよう。

日々、女性が社会で活躍できることを願い、吟子は医師  
として、そして開拓者としての自分を支えていたのです。

ところが五十四歳のとき、突然の  
悲しみが吟子をおそいました。夫が  
過労で亡くなってしまったのです。  
数年後、吟子は長く暮らした北海道  
から東京に戻り、またひっそりと医  
院を開きました。最後まで女性医師  
としての理想をもち続けることをあ



〔荻野が会長を務めた瀬棚淑徳婦人会〕

きらめない人生を選んだのです。その五年後、吟子は六十二  
歳で波乱の人生を閉じました。吟子は、我が国の女性医師  
第一号となっただけでなく、官立学校への女子の入学許可

や女子医大設置を求める運動を続けるなど、女性の地位向  
上への第一歩を築き上げました。

一九八四年、吟子のこれまでの偉業をたたえ、日本女  
医会は「荻野吟子賞」を制定しました。この賞は、吟子が  
亡くなり百年を過ぎた今でも、女性医師の道を切り開いた  
一人の女性の人生を語り継いでくれるものなのです。

一九八四	「日本女医会 荻野吟子賞」が制定される
一九一三	東京で死去する（六十二歳）
一八九七	北海道の瀬棚町に医院を開業し、婦人会をつくる（四十六歳）
一八八五	医学試験後期に合格する 東京都本郷湯島に医院を開業する（三十四歳）
一八七九	東京女子師範学校を修了する 私立医学校「好寿院」に入学する（二十八歳）
一八五一	武蔵国幡羅郡俵瀬村（現在の埼玉県熊谷市俵瀬）で生まれる

\*才女：能力のあるかしい女性

\*荻野吟子賞：日本女医会から、女性の地位向上や医療  
に多大な貢献をした女性医師に贈られる賞

